令和元年度第７回　第三吾嬬小学校　校長「語らいサロン」

テーマ『「思いやり」をはぐくむ「こころの教育」について』

令和２年２月１５日（土）9:00-9:50　　応接室にて

参加者　保護者４名

川中子　おはようございます。まずお子さんの学年とお名前をお願いします。

Ａさん　６年生のＡです。

Ｂさん　４年のＢです。

川中子　ありがとうございます。それでは、今日は、テーマ「思いやり」を育む「こころの教育について」でお話をしたいと思いますが、今日は少人数なのでお気軽にお話ししましょう。

それでは、話のきっかけにと思って、先日お願いした保護者アンケートの中の意識調査の結果をお持ちしました。見てもらうと分かるとおり、「子供に身に付けさせたいもの」が「思いやり」、「学校教育に期待すること」が「道徳・心の教育」がトップなんですよ。（中略　少し暗唱の話をしました。）

ここの子供たちは、みんな優しい子が多いので、昨年度来た時、優しい子が多いなあという印象を受けました。町の方をみても昔ながらのいいところを残していて、今の東京では見ないようなところがあって、ちょっとお節介だと思っている人もいるかも知れませんが、人情味あふれた文化が残っているのは素晴らしいなと思います。子供たちのことをとっても大事にしてくれますからね。本当に、自分の時間とか、もしかしたらお金とかも削って、子供たちのために。子供たちは守られているなと思います。

このアンケートの結果ですが、上の方の「子供に身に付けてほしいものは何ですか」というのには、これまでの学校でも「思いやり」はトップに来ました。保護者の皆さんは、子供に勉強ができるようになってもらいたいけれど、それよりもこっちのが大事だなと思っているのかなと思います。私もそれは、同感で。ここに私がずっと考えたことをまとめた図があるんですが。私は、子供たちに身に付けてもらいたいのは、「思考力・判断力・表現力」だったり、それを具現化する「実行力」だったりするんですが、こういうものがあっても、いくら頭がよくなって判断することができるようになったとしても、それが思いやりに基づいたものでなかったら、何の意味もない。私は教員としてずっとこのことを考え続けています。では、この部分（上の「思考力・判断力・表現力」や「実行力」）はどうやったら身に付けられるのかっていったら、それは「学ぶ」ことで身に付けられるのです。学校で行っている全ての「学ぶこと」を通して、身に付けていくものなんですね。じゃあ、この元になっている「思いやり」って言うのは、どうやって身に付けていけばいいんでしょう。これは、すごく難しい問題ですね。

それから、学校に対して「道徳や心の教育」を一番に求めているんですよね。これ、アンケートに答えるとしたら、お二人ならどう答えると思いますか？

Ａさん　私はここじゃなかったかな。

Ｂさん　私は、たぶん両方ともこれ（思いやり、心の教育）だと。

川中子　おはようございます！（Ｃさん来校）今、上のグラフを見ながら話してます。

Ａさん　私、「外国語」にしたかな？

川中子　外国語ですか。そういうものが、学校に求めるものじゃないでしょうかね？

学校に求めるものっていうのは、そっちの方が自然なことだと思うんですよね。勉強をしっかり教えてほしい、ていうのが学校に求めるものですよね。

Ａさん　そうですよね。こっちの方は、小さい頃から積み上げてきたんじゃないかと思うんですが。うちの場合、息子はすごく思いやりはあるという気がするんですね。うたた寝したときに、布団をそっと掛けてくれたり、結構気が利いてるっていうか。うまいな、って思うんですけど。姉がまったくそういう感じじゃないので。私も同じ環境にいて何でこんなに違うんだろうって思うんですけど。

川中子　そうですよね！ねえ、おんなじ家庭に生まれて。うちも４人いますがみんなそれぞれ違いますからね。Ｃさんも、小さいお子さんを育てるお仕事をされていて、思いやりって言うのはやっぱり大事ですよね？

Ｃさん　そうですね。やっぱり大事だと思います。私は、保育士をしているんですが。今、一歳児クラス、今年２歳になる子供たちも、個性がそれぞれあって。子供たちが、おうちの人にされていることとか、兄弟にされていることをまねすることがあるんじゃないかなって感じることがあるんですね。小さい子にも優しくしてあげる子、自分は１歳２歳ですけど、やっぱり０歳児、自分より小さい子に優しくしているっていうのは自分がされてきたことをしているかなって思うことが多いですね。

川中子　そんなに小さいときからありますか。

Ｃさん　あります、あります！例えば、１歳児２歳児でも、０歳児におもちゃをほしいって言われたら、小さい子には譲ってあげるとか、同じクラスのことは取り合いをするのに、小さい子には、「ああ、しょうがないな」って感じで譲ったりとか、いいよって言って誘ってあげたり。かと思うと、１歳児にもできるのに２歳児なのに０歳児と同等にとりあいっこしてしまう子もいたり。それぞれの姿がみられるなって。今、家庭と学校都って話がありましたけど、私も保育士の研修で聞いた話なんですが、保育士としてできることっていうので印象的な話だったのは、クラス運営をしていく上で、例えばズボンの着脱ができない子に、「頑張ってやってごらん」って声をかけたり、「みんなで頑張れって応援しよう！」って声をかけたり、優しい温かい目で、先生が優しくしてあげるって言うのが大切で。子供は気分によってやったり、やらなかったりすることがあるので、「それくらい、自分でやりなさいよ！」っていう感じだと、周りで見ている子供たちも応援しないようなクラスになっちゃうっていっているので。私もすごく気をつけていて。できない子にもがんばれ～っていう姿勢でいたら、子供たちもそういう姿勢になってきて。そういう面では、大人の目線だったり、関わりが、子供の心にすごく影響しているんだなって。仕事する面でも思いました。

川中子　そうですね。こういう話もありますね。そのできない子に手伝ってあげる子がいる。それはその子の思いやりなんですけど、その思いやりは、こっちの子にとって本当にいいことなのか分からないなんて事もありますね。いつも手伝ってあげることがその子のためにいいのか。本当は、最初は、手伝ってあげる思いやりがあって、そしてもう少し進むと手伝わない思いやりって言うのも出てくるんですよね。そこら辺は、子供と接していると感じることがよくありますね。私は中学校の教員だったの、中学生にもありますし、もちろん小学生にもあります。まあ、幼稚園保育園のころから社会人の１年生まで、人間として身に付けてもらいたいことって、実はほとんど変わらなくて。「あいさつができる」とか。基本は同じなんですね。こういうのは一生かかって学んでいくのかな。ちょっと話がずれちゃったんですが、学校に心の教育を充実してほしいっていう保護者がこんなにいるって言うのは、私にしてみると、へーって思う部分と、それって、本当に学校に求めるべきものなのかな？って、そういう両方の気持ちがあります。心の教育を学校に求めるという家庭の皆さんの気持ちって言うのはどういうものなんだろう？学校はやっぱり、算数ができるようになってほしいとかを学ぶ場所ですよね。勉強するところです。だから、勉強ができるようになってほしいって言うのは、学校に求めてもらうものであり、学校はそれを責任もってできるようにさせる必要があるんですよ。我々は、プロとして。でも、もちろんそれ以外の部分も学校では大事にしていて、その中で例えば、道徳なんかはとても大事なものとして考えられています。私はもともと英語の先生だったんですが、英語を教えるのよりこころの話をしているのが好きで、英語をやりながら、心の話をしていたのが、５０分のうち２０分くらい話していたりしたなあって、今後悔していますね。ちゃんと英語を教えてあげればよかったと。

文部科学省でも道徳教育を充実させなさいと。いじめ問題が深刻になってきているから、って。いじめ問題は大昔から深刻な問題ではあったんですが。学校はそれに答えたいと思っています。でも、おうちの人ががっこうにそれをまかせておけばいいや、って思っていないかなっていうのはちょっと気がかりです。そうでなければいいんですが。

Ａさん　そういうのは、私もずっと戦っていたってかんじですね。小学校の時もいろいろあって、担任の先生もずいぶん話してくれたりしてたんですが。うちの娘は、けっこう学校のことを話してくれるんです。本当にいろんな、特に同級生の女の子とのことは、私もすごくよく分かっているんです。私に逐一報告してくるんで。それが私の悩みの種にもな
でも何とか先生と協力して解決して…。

で、中学でもあって。中学ではないだろうと思っていたんですが、やっぱり LINE で…。それで、旦那にも動いてもらって先生にも話に行って、子供にも直接行動をおこして。相手のお子さんも見つけて、話に行ったこともあったんです。早くに収めないと大変なことになると。LINE ですから、あっという間に広まってしまうので。ぜんぜん悪いことしてなかったんですよ。ただちょっと、間が悪かったと言うか。で、そういうところの親御さんていうのは、すごく放任主義で、先生たちが電話をかけてもつながらないお家なんですよ。それは前から知っていたんですけど。それで先生にもやってもらって、私たちもやったんです。本人は芯の強い子なので、学校も休まず堂々としていましたけど。普通だったら、登校拒否になるよね、って周りのお母さんたちにも言われたんですけど、何とかそれで、解決というか…、まあスッキリはしなかったんですけど、本人が許したと。

川中子　今おいくつなんですか？

Ａさん　高 1 です。中 3 の時にそれがあったので…。こっちもちょっと言葉が足らずに誤解されたっていうことはあったので。まあ、うちの子はよく話してくれるんでよかったのですけど。男の子はあまり話さないですね。だから、塾に行く時一緒に送って行くんですが、そんな時にいろいろ話してくれたりします。うちに帰ったら帰ったでゲームしたり、いろいろすることがあるみたいで。話すとしたら、食事の時とそういう歩いたりしている時なので、そういう時間を大切にして。過保護かもしれないんですけどね。行き帰りに話して。

川中子　お子さんたちは学校の話、しますか？

Ｂさん　どっちかっていうと少ないですね。

Ｃさん　うちは、言いたいことがあったときに話すんですけど、うちも去年いろいろあったときに、少しは話すんですけど、聞くとどんどん出てくるっていう感じで。恐らく、自分の気持ちでやだっていうのはあるんだけど、掘り下げて説明するって言うのは聞かないとわからないっていうのが、去年の経験から感じることです。

川中子　話せないですよね。ご自分でいかがですか？自分の悩んでいることなんて、話しづらいですよね。

Ａさん　私も自分で解決していた方なので、あんまり人に話したりしませんでしたね。だから、こんなにこの子はストレートに話すんだと、自分の娘ながらね、よく話す子だなと思ったんですが、だから解決したというところもあるんですがね。私は自分は自分で処理してました、親に黙って。

川中子　そうですよね。なかなか話せないですよ。大事な話ほど、話せない。どうでもいい話なら話せますけど。だけど、さっきの話の、一緒に歩いたりしてる時って話しやすいんですよね。一緒に散歩してたりすると、「実はさあ」なんて出てきたり。

Ａさん　そう、前の話まで出てきたりするんですよ。そうすると、その時に聞きたかったなあなんて思うこともあるんですが。

川中子　ああ、どうも！おはようございます。（D さん、来校）

まあ、親として話してくれると、安心もするし心配もするんですが。まあ、なかなか話せないっていうのもあるんですけど、そういうきっかけを作ってあげるっていうのも大事なことかな。やっぱり、子供としても話せて良かったってホッとするっていうのもあるし。「話す」っていうのは、「放す」ってことだって、カウンセラーさんなんかがいうんですが、本当にそうですね。モヤモヤしたものを抱え込んでいるとよくないから、「話して」「放す」んです、って。

まあ、そういう友達関係の中でも「思いやり」って大事になってきますよね。その子がどういう家庭で育ったかっていうのは、その子の思いやりの形成にも強く関与しているんじゃないかと思います。じゃあ、その子はもうダメなのか？そうは言いたくないですよね。そういうこともあって、学校で心の問題を大事にしてほしいっていう考え方がありますね。それと、単純に「自分の子供がいじめられたりしないようにしてほしい」っていう、親として当然の願いもあるわけです。みんな仲良く過ごせる、そういう集団であってほしいという気持ちの表れなのかな。このアンケートの結果にしても。

でも、保護者はそれを学校に任せっきりでいいとは思わないでほしいと思ってるんですね。私はこのあんけーとの上の方（子供に身につけてほしいもの）は、保護者の気持ちでいいと思うんですが、下の方（学校に期待すること）は、保護者にも責任をもっておいてほしいことだと思うんです。子供が思いやりを持った子供に育つかどうかは、家庭でもしっかり責任をもっていてほしいんです。

ちょっと、（プリントの）下の方にまとめて見たことなんですけど、「思いやり」っていうのは、私が教員人生でずーっとテーマにしてきたことなんですね。中学生と話をしてきて「思いやりって大事だよね」ってみんな言うんですけど、ドイツの学校に勤めていた時、ドイツに暮らしてる子っていうのは、ドイツ語や英語の中で暮らしているせいもあってか、言葉に敏感なんですね。その子たちが思いやりってことを考えていた時、「思いやり」って言葉は何か上から目線でイヤな感じがする、って言ったんですね。「やる」ってところ。「あげる」っていう意味ですね。「ナニナニしてやる」って感じがいやだって。そこで、この「思いやり」って言葉をきちんと調べて見たんです。まず広辞苑なんかで調べると、その言葉がいつ頃から使われているかっていうのもわかりますので、みてみると（プリントの辞書の定義を確認）源氏物語とか、伊勢物語とか、もう 1000 年以上前に使われていた言葉で、そのころは①の「想像・推量」「思いをはせる」って意味で使われたんですね。そして後から同情するっていう意味で使われるようになってきた言葉ですね。

で、最近、この（プリントの）裏の方に載せた、最近すごく話題になっている『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』っていう本で、ブレイディみかこさんというイギリスに住んでいる日本の方で、向こうで文筆業をされていて、もともと保育士さんなんかもされていたらしいんですが。旦那さんはアイルランド人？って言ったかな。その白人の旦那さんと、黄色人種の自分との間に生まれた息子さんは、白人っぽいし黄色人っぽいし。でも白人の中に入ると明らかに東洋人だとわかる顔だと。それで、僕はイエローでホワイトで。ブルーは、肌の色じゃなくて、悲しい、憂鬱なっていう意味のブルーです。そう言う言葉が、子供の中から出てくるという、まあとってもすてきな話が書かれていました。その中で、息子さんが通っている普通の公立の中学校での話がネタになっているんですが、そこでいろんな民族の人と一緒に暮らしながら、いろんなことを学んでいくんですね。その本の中で、イギリスの公立中学校で必修になっているという Citizenship Education、日本語にすると市民科というんでしょうかね。日本で言ったら、道徳とか、公民っていう教科でしょうかね。品川区では今道徳の代わりに「市民科」という教科があるんですね。（プリントの内容の確認。シティズンシップ・エデュケーションのこと、エンパシーのこと、シンパシーとエンパシーの違いについて、本の内容の紹介）

この英語のシンパシーとエンパシーと言う言葉ですが、両方とも似てますよね？この後ろっ側の「パシー」の部分は、もともとギリシャ語の「パトス」って言う言葉で、「感情」っていうような意味です。前の方の「エン」は「イン」と同じで「中へ、内側へ」、「シン」は「一緒に、集める、同じにする」っていう意味です。だから「シンパシー」は「同情」、「エンパシー」は「心の中へ」「共感」「感情移入」と言う意味になってきます。そして、ブレイディさんはそれが「能力だ」と言っているんです。「思いやり」は「能力」という側面ももっているかもしれないと言うことです。つまり、にじみ出てくるだけのものではなく、身に付けることができるものであると考えられる。とすると、学校教育の中で思いやりは育てられるのではないか。じゃ、どうしたらいいの？っていうのが悩みどころですよね。

何かいいアイディアはありますか？

全員　・・・

川中子　私は答えをもっていませんので、「はい、正解です！」とか言いませんから！

Ｄさん　「思いやりのある行動をしましょう」って言うと難しいじゃないですか。だれかが何か迷惑な行為をしたり、自分がちょっとやだなって思ったことに対して、相手の行動に対して思いやりをかけるっていう方がやりやすい、伝わりやすいかなと思います。迷惑をかけられたときにどう対応するのか。そのときに相手の気持ちを考える。自分が行動するときにみんなのことを考えてやらなければっていうのは大変だけど。だから受けるときにそうしましょうって言った方がわかりやすいなと、最近は思っています。

Ｂさん　私、最近まで妊婦だったんですけど。仕事もしていて、電車だったりバスだったりによく乗るんですけど、結構長い期間妊娠中でおなかも出ていて、ほぼ席を譲られなかったんです。毎日のように電車に乗っていても。なんか、そういうふうに妊娠してたら大変だろうな、って席を譲るのは当たり前だろうなって私は思ってたけど、ぜんぜん譲られなかったんですね。で、子供にはそういう妊娠している人とか、お年寄りには席を譲る子になってほしくって、それが当たり前にできる子になってほしくて･･･。私は中学か何かの時、お年寄りの大変さを知ろうっていうので、何か重り見たいのをつけてやったんですね。確か、妊娠中も両親学級というのがあって、パパが妊婦さんがどんな思いをしてるか、これだけ体が重いんだよって言うのを体験してみなさいっていう。で、実際それを体験してみると、あ、こんなお年寄りって大変なんだ、こんな階段一段上がるのが大変なんだってわかるんですね。だから子供たちも学校のイベントや授業でそう言う体験をしてくれたら、妊婦さんってこんな大変な思いしているんだ、じゃ譲らな

きゃって。お年寄りが立ってたら、大変だから譲らなければいけないって言うのを、学校でも教えてくれるといいなあって思います。

川中子　それはできますね。学校で、体験させるって言うのは。そういうプログラムってかなりいいものがいっぱいありますので。学校の先生ができなくても、来てやってもらうことができます。先生たちはそう言う体験をしてる人ばかりじゃないんですが、今私は積極的に外部の人に学校教育に参加してもらおうと呼んでくることを進めているんですが、そういう時にそういうプログラムをもっていて学校で教えますよっていう方はいくらでもいるので、取り入れていくことができますよね。で、その体験をすることによって、相手に思いをはせることができるようになることで、思いやりを育てることにつながりますね。確かに。で、さっきDさんも言っていたんですが、やっちゃう子とやられちゃう子がいるじゃないですか。子供の中には、人のことをすごく気にかける、かけられる子と、そうじゃない子といますね。逆に言うと、人のことばっかり気にしちゃう子と、全然気にしないで自分で歩いて行けちゃう子といますね。どっちも良さがあって、どっちもかいぜんした方がいいところがあって。あんまり人のことばっかり気にしてると、自分の思いを貫けなくなったり、うまく表現できなくなったり。あんまり人のことを気にしないと、勝手な子って言われてしまったりします。バランス感覚が大事かな。

Ａさん　うちの子の場合だと、あるとき家族で食事をしていたとき、おばあちゃんがむせてしまったら、即座に水を運んでいったんですよね。すごい速いな、この子は。そのときおばあちゃんが、「ありがとう」って感謝してくれて。たぶん、ありがとう、って言われるのがうれしくて。何かやってもらうとみんな心を込めて「ありがとう」って言うじゃないですか。感謝するからそれがうれしいのかな。それで次も、次もって。そうじゃないときもありますよ。ふと思い立ったときにそういう行動に出るんですけど。感謝されることがうれしいのかなって思いますけど。

川中子　そうですね。それはありますよね。ありがとうは素晴らしい言葉。

Ａさん　で、また新たにそう言う行動をやってあげようって彼は思うんじゃないかな。

川中子　ありがとう、はすごい力を持った言葉ですね。でもそうやって、ぱっと動けるっていうのは、素晴らしいお子さんです。でも、こういうこともありますよね、たとえば、「あ、おばあちゃんが乗ってきたんだけど、どうぞっていう勇気が出ないからどうしよう」と、こういう子もいますよね。そこで、勇気を出してどうぞといえるようになるのは、やっぱりそれなりの覚悟が必要で、そう言う覚悟が何でもなくできる人と、ものすごい力を出さないとできないって言う人といますよね。で、その子たちの思いやりって、優劣がつけられるのかなって。なんか、Ｂさんが譲られなかった，っていうのは、日本らしいですよね！私、ヨーロッパにいたときは、嘘みたいに譲られますからね。うちも子供が生まれたばかりでバギーを使っていたんですが、バスでも電車でも競って手助けしてくれます。小さい赤ん坊つれて歩いているとすごく親切にされます。ドアも押さえていてくれる。ああいうのは、社会の中で当たり前になってしまっていて、そういうことをしない人はものすごく変な人に思われます。アメリカでも、ドアなんか相当向こうの人でも待っていてくれますよね。私は行ったとき、そういう習慣がないので、ドアをばーんと開けてそのままにするから後ろから来る人にものすごく怒られました。ありえないこと！って。日本に帰ってきて、逆に明けて待っていたりすると「外国から帰ってきた人ね」なんてからかわれたりして！社会的な思いやりのある社会。思いやりって言っていいのかわかりませんが。そう言う違いもありますね。思いやりが心の中にあるんだけど、なかなか行動に出せないうちは、やっぱりあっても出せるところまで行かないとだめかな。だから、私は子供たちにあっても出せるところまでいかないと、ないのと同じになっちゃうよって説き続けてきています。まあ、自分自身もそんな行動力がないんですよ。どうぞって声かけるのは緊張します。まあ、子供と一緒にいれば、校長先生だから立場としてそういうことは簡単にできますが。日本人は特にそうだと思うんですが、たとえば、駅で困っている人がいて駅員さんを呼んできて「困っている人がいます。」って。自分が助ければいいじゃないか！ってことなんですけどね。立場がないと、しゃしゃりでないことが美しいことという考え方が日本にはありますかね。自分でも本当に行動力をつけなければいけないなって、今でも学んでいます。私も。最近になってくると、妻が妊娠中大変な思いをしているのを知れば、そう言う人を見てああこの人は大変だなって気づけるようになったし、お年寄りが電車で立っていれば、自分の年老いた親が立っていたらどうかな、ってわかる。そうやって何かに置き換えて、この人は大変だなって思えるように心って言うのが大事なのかな。

　で、私はもう一つ中学校で教えていたとき、供たちと話しているとき、「思いやり」って英語にすると何ていう言葉になるかなっていう話題になって、みんなは「うーん、　kind ？」とか、「優しさ、親切」みたいな言葉を思い浮かべていたんですね。その頃、私はハッと思ったのが、じつは「赤毛のアン」の映画をみていた時なんです。アンは孤児院で育てられ、いろんなうちで働かされたり、子守をさせられたりして、里親も次々と変わって、小さい頃から大変な思いをして育ちます。アンは本が大好きで、いつも空想の世界でいきています。グリーンゲーブルズに引き取られ、やっと幸せな日々を過ごせるようになって、近所の裕福な家庭の娘さん（ダイアナ）と仲良くなります。でもある時、アンが友達を家に招待して、ジュースだと思ってだしたのがワインだったことがあって、その家庭は禁酒運動をしているような家庭だったので、カンカンに怒ってしまってもう付き合ってはいけませんと言われてしまいます。二人は心の中では会いたくて仕方ないのに我慢しなければなりません。そんなある晩に、両親が出かけてしまっている間にダイアナの妹が高熱を出して、家政婦も何もできずダイアナは怖くなってしまいます。それで、グリーンゲーブルズまで雪の中を助けを求めにきます。アンは小さい子供の世話を嫌と言うほどさせられた経験があるので、こういう熱が出た時どうしたらいいかしっているので、すぐにダイアナの家まで行きます。そこで家政婦にお湯を沸かして、部屋を温めてなんて指示を出すんですが、その時「こんなことちょっとでも想像力があれば、わかることでしょう！」と怒るんですね。私はその言葉を聞いて、ああ、思いやりっていうのはこれと同じだと思ってんです。思いやりっていうのは、想像力、イマジネーションなんだって。

　で、この想像力の方は、体験すると身についていく。体験しないと難しいんですが。そうしたら、子供たちに疑似体験させるには何ができるかな、って考えたとき、「本」なんです。本を読ませるんです。読書をすると思いやりが育つ、っていうのを信じているんです。本を読むことによって人生の疑似体験をする、学校の教育の中で、読書は「国語の力をつける」だけじゃなくて、絶対に必要なことだと思っています。一生続けられる楽しみでもあると思っています。これを私は教員として、思いやりを身に付けさせる「一つの方法」と考えています。読書は子供たちに勧めて行きたいな、と思います。

　で、時間がもうだいぶ超過してしまっていますが。私ばかりしゃべってて！

　最後に、皆さんに聞いていただきたい歌があって。ちょっと聞いてみましょうか

（ジョン・レノン『ハウ？』を聞く。「愛されたことがないのに、どうやって愛したらいいの？」と歌っている。）

　英語の時間にこういうのを聞かせて、こういう話をしてるのが好きで、英語の時間が終わっちゃうんですよね。

　今日、「学校で何ができるか？」って話をしたんですけど、逆に「家庭でなにができるか」っていったら、やっぱりこれなんですね。やっぱり、家庭ではお子さんのことを愛してあげることじゃないかな。大事にしてあげることです。愛されたことがなければ、愛することができないって、ジョン・レノンはとってもさみしい子供時代を過ごしたので。お父さんもいない、お母さんも途中で死んでしまい、おばさんに育てられ、愛された経験がないって歌ってるんですね。とっても、悲しみが伝わってきますね。私たちが子供のためにできることは、やっぱり愛してあげることなのかなって。学校ももちろんそうですけど。家庭でもそこのところをやってもらえたら、子供たちもきっと思いやりのある子に育つんじゃないかなって‥思います。では、今日はこれで。ありがとうございました。